

平成28年度 家庭教育支援活動一覧

○事業実施市町及び取組教育支援活動 7市町15活動

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動	学習講座・行事等の実施
1	近江八幡市	○	○	○
2	草津市			○
3	甲賀市	○	○	○
4	湖南市		○	○
5	高島市	○	○	○
6	日野町	○		○
7	竜王町			○

○教育支援活動の内容

【地域人材の養成】

	市町名	講座数	期待する能力	養成後の活動の場所
1	近江八幡市	3	・より客観性を持った視点で現状を見る ・関係関との連携、人材発掘 ・研修などの企画、提案	・主に学校においての相談活動や研修会 ・関係機関や家庭に赴いての課題解決に向けた取組
2	甲賀市	6	・読み聞かせの基礎知識の習得とスキルアップなど、家庭教育サポーターとしての資質向上	・家庭教育支援チームにおける活動 ・家庭教育に関する学習講座
3	高島市	1	・地域住民との関係づくり	・家庭教育支援チームにおける活動 ・地域の民生委員として活動
4	日野町	1	・子どもの発達や遊びについての知識 ・子育てや家庭での教育について相談に応じる力	・子育てサロン等地域での子育て支援活動

【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動日数	主な活動内容		
				学習機会のコーディネート	相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	8	240 (延べ)	○	○	○
2	甲賀市	15	4	○		
3	湖南市	7	125 (延べ)	○	○	○
4	高島市	18	24	○	○	

【学習講座・行事等】

	市町名	実施 学校区数	開催回数	活用する行事等の機会 ※1	講座の概要 ※2
1	近江八幡市	8	20	⑤⑥	②
2	草津市	7	12	①④⑤⑥	⑫
3	甲賀市	4	64	④⑥	①③④⑤⑪⑫
4	湖南市	4	30	④⑤⑥	②③⑤⑥⑦⑩⑫
5	高島市	13	28	④⑥	⑪⑫
7	日野町	5	35	②⑤⑥	①⑥③⑩
8	竜王町	2	11	⑤⑥	③⑩⑫

※1 ①乳幼児健診 ②就学時健診、③入学説明会 ④保護者会、参観日 ⑤PTA研修会等 ⑥単独開催

※2 ①発達段階の特徴や親の心得 ②保護者同士の交流や子育てに関する意見交換会 ③生活習慣、食育
④遊び、運動 ⑤道徳心・思いやり、命の大切さなど心の育成 ⑥インターネットや携帯電話等 ⑦お小遣い・消費生活
⑧いじめ、不登校、非行、問題行動の対応 ⑨虐待 ⑩子育て・家庭教育への男女共同参画 ⑪乳幼児とふれあい
⑫その他

「平成28年度事業計画書」より

■ 近江八幡市における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

各小学校で、校長の構想と理念に基づき、家庭における教育力の向上を家庭教育支援チームで展開する。家庭教育支援チームは、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、家庭教育コーディネーター等で構成する。家庭教育支援チームは、事業計画に基づき必要な指示を家庭教育支援コーディネーターに与える。家庭教育支援コーディネーターは家庭教育支援チームと密に連携しながら、学校関係者や地域の団体、地域住民等のボランティア、保護者等と協力して子育て学習会、講演会等を実施する。また、地域の家庭に関する情報を学校に伝え、学校は保護者対応等に活用する。

■ 本年度の活動

家庭教育推進協議会（年3回）

家庭教育支援基盤形成事業学校担当者会議（年1回）

家庭教育支援コーディネーター会議（年3回）

子育てサポーター養成講座(子ども支援課主催)に参画（年3回）

子育て支援ネットワーク会議(子ども支援課主催)に参画（年3回）

桐原東小・家庭教育研修会

- ・6月22日(水) (講師 岡田さよ子さん(家庭教育推進協議会副会長) 【学校支援メニューフェア】
企業・NPO等との連携

- ・7月27日(水) 桐原小学校で、学校支援メニューフェア in 近江八幡 2016 を開催した。NPO 法人 ママの働き方応援隊、NPO 滋賀次世代文化芸術センター等の家庭教育支援に資する団体が出展した。

家庭教育支援基盤形成事業成果発表会：2月17日(金)



■ 本年度の成果

- ・昨年度、各小学校に家庭教育支援チームを作り、校長や家庭教育支援コーディネーターをチームのメンバーとして位置付けたことで、校長の方針のもとで家庭教育支援コーディネーターを中心に事業を展開できた。
- ・気軽に足を運べて、同じ子育て中の方とおしゃべりをする中で、子育ての不安や悩みを共有することができるサロンや、子どもを取り巻く状況に応じた学習会等を開催し、効果的な事業を展開している。

■ 今後の課題

- ・家庭教育支援コーディネーターの限られた出勤時間の中、事業を展開していくのにも限界がある。
- ・家庭教育支援の方向性を決定し、それに基づき事業を展開していく上で、チーム会議は重要であるが、チーム会議の日程調整が難しい。
- ・子育てにしんどさを抱えている保護者へのアプローチが課題である。



【家庭教育推進協議会】

■ 小学校は家庭教育支援のプラットフォーム

■ 近江八幡市	
■ 活動名 (○) 地域人材の養成 (○) 家庭教育支援チームの設置・活動 (○) 学習講座・行事の実施	
講座数 (年間活動日数)	家庭教育推進協議会 3 回、コーディネーター会議 3 回、研修等実施

コーディネーター数	8 人
家庭教育支援員数	26 人
実施開始年度 (H23)	実施学校区数 (8 小学校区)

■ 活動の概要

市立 12 小学校のうち家庭教育支援事業実施を希望した 8 小学校に家庭教育支援コーディネーターを配属している。事業実施校には、校長、教頭、教育相談担当教員、生活指導担当教員、主任児童委員、家庭教育支援コーディネーター等を構成員とする家庭教育支援チームを設置している。家庭教育支援コーディネーターは、家庭教育支援チームの一員として密に学校と連携しながら学校の指示や助言を得て、各学校や地域の実情に応じた保護者の交流の場や講演会、料理作りや映画会などの事業や学校への家庭・地域の情報提供などを行っている。市は、家庭教育支援コーディネーターのスキルアップのために会議や情報提供、研修会等を行っている。

○家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、主任児童委員、家庭教育支援コーディネーター等を構成員とする家庭教育支援チームを設置し、コーディネーターが孤立しないようチームを介して学校や管理職の指示や助言、相談を得ながら家庭教育支援活動を行えるよう努めている。家庭教育相談員が学校の要請に応じて小学校に出向き、保護者相談に応じている。

○学習講座・行事の実施

家庭教育支援コーディネーターが、家庭教育支援チームの一員として学校と密に連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行っている。市教委は、コーディネーター等対象の研修会や会議等を開催している。

○地域人材の養成

家庭教育支援コーディネーターの資質向上や情報交換のため、コーディネーター会議を開催している。

市教育委員会は、コーディネーターに家庭教育に資する先進事例等の情報提供を行っている。

コーディネーター同士の連携や情報交換となる機会を持ち、互いにスキルアップや課題解決ができるよう図っている。

■ 特徴的な活動内容

○コーディネーターの各小学校への配属

各小学校にコーディネーターを配属しているので、学校で学校教員とコーディネーターが意思疎通を図れている。コーディネーターは地域の人材なので、学校では知り得ない地域の情報を学校に伝え、学校は保護者対応に活用している。

○家庭教育支援コーディネーターによる学校への情報提供

コーディネーターは、学校では把握できない地域での家庭の評価や各家庭間の関係などを含む児童の家庭や地域の情報を学校に伝え、学校は児童の行動の背景にある家庭の実態の理解や指導等に活用している。

○企業・NPO等との連携

学校支援メニューフェアには、家庭教育支援に資するプログラムを持つ企業・団体も出展している。家庭教育支援コーディネーターや各小学校の教員もメニューフェアに参画し、これらの企業・団体のプログラムを見学・体験している。NPO 滋賀次世代文化芸術センター、(株)NTTドコモ、(株)ワコール、(株)ナリス化粧品、NPO 法人ママの働き方応援隊等の活用実績がある。

■ 実施に当たっての工夫

○学校行事等の後に事業を行うなどして、参加者の負担軽減・参加者の確保に努めている。

○コーディネーター間の横の連携や情報交換、市教委からの情報提供をとおして、コーディネーターの資質向上に努めている。

○家庭教育支援チームを作り、校長の理念に基づいてコーディネーターが学校と一体となって家庭教育支援活動に取り組めるようにしている。

■ 事業の成果

○軽い悩みの保護者が、サロン等の場に来ることで相談したり、交流したりして悩みの軽減と保護者同士のつながりが生まれている。

○少人数で対象とテーマを絞ることで、来ることにためらいを感じておられる保護者に参加しやすくしている。

○コーディネーターを中心とした家庭教育支援チームで、学校・家庭・地域の情報を共有し、連携することができている

■ 事業実施上の課題

○家庭教育支援コーディネーターの勤務時間数が年間 45 時間なので、十分な活動ができない。

○家庭教育支援チーム会議の日程調整が難しい。



【学校支援メニューフェア】



【家庭教育推進協議会】

■ 草津市における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

本市においては、市制施行（昭和 29 年）以降、一貫して人口が増加しており、子育て世帯や核家族も増加している。家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多く、家庭での子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等との連携により、保護者への学習機会の提供を実施することにより家庭教育の推進を図る。

■ 本年度の活動

○ 家庭教育学習事業費補助金

家庭教育力の向上のため、家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位 PTA に対して、子どもたちを取り巻く現状や課題・解決方法、子育ての手法、保護者同士の繋がりの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位 PTA における特色のある家庭教育学習事業を支援した。

○ 家庭教育出前講座

家庭で子どもが心豊かに成長し、よりよい生活習慣を確立するため、各単位 PTA や地域住民と一緒に考える場として、市職員が出向いて実施するタブレット PC 体験や青少年の現状などをテーマにした「家庭教育出前講座」を関係部局と連携して実施した。

○ 家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取り組みを実施。これまで実施してきた「家庭読書」を軸にしながら、「情報モラル」といった保護者のニーズにあったテーマなども実施した。

○ 家庭教育に関する情報発信

市広報誌において、家庭教育に関することをテーマに掲載し、家庭教育の大切さを啓発した。また、読書をテーマに家庭教育サポート事業を実施する時には、市で推進している「家庭読書（家読＝うちどく）のすすめ」や県発行の「子ども読書啓発冊子」などを紹介することにより、家庭読書の啓発を行った。

■ 本年度の成果

市広報を活用した啓発や図書館や関係各課等と連携して実施した家庭教育サポート事業などで、家庭教育の大切さおよび家庭でできることを伝えることができた。

■ 今後の課題

家庭教育に関する保護者のニーズを把握し、ニーズにあった家庭教育支援を実施していくことが必要である。また、多くの保護者に参加してもらうための工夫が必要である。



【家庭教育出前講座】

■ 草津市家庭教育サポート事業～家庭で育む子どもの力～

■ 草津市	
■ 活動	
() 地域人材の育成	
() 家庭教育支援チームの設置・活動	
(○) 学習講座・行事の実施	
講座数(年間活動日数)	10講座

コーディネーター数	2人
家庭教育支援員数	0人
実施開始年度(H26)	実施学校区数(7)校区

■ 活動の概要

市内中学校区にある小学校7校および関係各課と連携した乳幼児健診の場を活用して、家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭教育力の向上を図る。

■ 特徴的な活動内容

保護者を対象に図書館司書や読書ボランティア等から、子どもが本を好きになるきっかけづくりについてお話しいただき、家庭での読み聞かせのコツや大切さ、読書のおもしろさ、子どもの発達段階に応じたおすすめの本の紹介などを行い、家庭の中で本を通じて子どもとふれあう時間の大切さを感じていただき、家庭教育の充実を図る。また、日頃の子育てに関する悩みについて、保護者のニーズにあった講座を開催することにより、効果的な家庭教育の推進を図る。

■ 実施に当たっての工夫

- ・授業参観の前後や学校行事がある日などの時間に実施するなど、保護者が参加しやすい方法を心がけた。
- ・保護者に図書館司書や読書ボランティアによる読み聞かせの実演をすることにより、保護者が家庭で行う読み聞かせの仕方について、具体的にイメージできるように工夫した。
- ・「家庭読書」をテーマに行う時は、市で推進している「家庭読書(家読=うちどく)のすすめ」に関するチラシの配布や県発行の年代別にに応じたおすすめの本を紹介している子ども読書啓発冊子の紹介を行ったり、「情報モラル」をテーマに行った時は、情報モラルに関するチラシの配布や役立つサイトの紹介などを行ったり、参加いただいた保護者に持ち帰ってもらえるツールの提供や紹介を行うように工夫した。

■ 事業の成果

- ・これまで当該事業では「家庭読書」を軸に実施してきたが、本年度はこれに加えて、日頃の子育てに関する悩みについて、「情報モラル」など保護者のニーズにあった講座を実施することにより、事業内容を展開することができた。
- ・家庭読書をテーマに実施した時の参加者アンケートでは、「子どもと一緒に本を読む時間を作ろうと思います。」や「絵本を読んでもあげたいです。」などの感想が多く、家庭における読書をツールとしたコミュニケーションのきっかけづくりができた。
- ・情報モラルをテーマに実施した時の参加者アンケートでは、「子どもとの時間をもっと大切に。」や「個人情報のこわさなど、子どもと話し合っていきたいと思います。」、「スマホを持たせる時には、私もフィルタリングについて学んで設定したいです。」などの感想をいただき、情報モラルについて家庭で話し合うきっかけになるとともに、保護者自身の学びにもつながった。

■ 事業実施上の課題

- ・保護者のニーズにあったテーマで実施できるように、ニーズの把握を行うとともに、ニーズにあった講座をコーディネートしていくことが課題。
- ・授業参観の前後や学校行事がある日など保護者が参加しやすい時間を利用して実施したが、なかなか人が集まらない時もあったため、時間や場所の工夫や参加者を募集する際の案内チラシも工夫して、多くの方に参加いただけるようにすることが課題。



【家庭教育サポート事業(家庭読書)】



【家庭教育サポート事業(情報モラル)】

■ 甲賀市における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

親子のふれあいを深め、基本的な生活習慣を家庭で身につけるための継続的な啓発と、保護者自身が気づき、考え、行動するための機会を提供する。また、地域のボランティアとして家庭教育サポーターやブックスタートサポーターを養成し、各事業に協力いただくことで地域全体で子育てを見守り、より身近な支援の輪を広げていく。

■ 本年度の活動

① 学習講座・行事の実施

- ・親子ふれあい音楽広場（年1回）
- ・親子ふれあい運動広場（年9回）
- ・親子ふれあい絵本広場（年1回）
- ・親子ふれあい食育講座（年3回）
- ・いきいき孫育て講座（3回連続講座）
- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園・小学校 年24回 ※予定）
- ・ママも0歳・パパも0歳 おはなし&ミニコンサート（年3回）
- ・子育てスタート講座 ①赤ちゃんとスキンシップ（年5回）
- ・子育てスタート講座 ②赤ちゃんと体ほぐし・心ほぐし（年4回）

② 地域人材の育成

- ・ブックスタートサポーター養成講座（年3回 うち1回は事業見学）

③ 家庭教育支援チームの設置・活動

- ・はじめまして親子広場（年9回）
- ・家庭教育サポーター会議（年3回）



【はじめまして親子広場】



【いきいき孫育て講座】

■ 本年度の成果

- ・子育て親育ち講座（保育園・幼稚園）の開催数は昨年度に引き続き増加し、より多くの保護者に参加してもらえた。
- ・「はじめまして親子広場」では、家庭教育サポーターが赤ちゃんと一緒にできる簡単な遊びや絵本等を紹介している。また、参加者同士の交流の場にもなっており、子育て不安の軽減につながっていることなどが参加者のアンケートからも伺える。

■ 今後の課題

- ・類似事業や参加者が少ない事業もあり、全体的な事業見直しと周知方法の再検討が必要である。
- ・「はじめまして親子広場」では家庭教育サポーターが講師を務めることから、フォローアップを充実させ、多くの家庭教育サポーターが活動に参加できるような下地作りが必要である。

■ その他

- ・甲賀市ホームページ 家庭教育支援事業の案内 <http://www.city.koka.lg.jp/4273.htm>
- ・甲賀市ホームページ 広報 家庭教育啓発記事（隔月15日号）<http://www.city.koka.lg.jp/kouhou/>

■子育て親育ち講座～“親力”アップを目指して～

■ 甲賀市	
■ 活動	
○ 地域人材の育成	
○ 家庭教育支援チームの設置・活動	
○ 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	9講座（年間活動日数4日）

コーディネーター数	3人
家庭教育支援員数	15人
実施開始年度（H23）	実施学校区数（8）校区

■ 活動の概要

○ 学習講座・行事の実施（一例）

- ・「子育て親育ち講座（保育園・幼稚園）」

保育園・幼稚園の保護者研修や親子活動等の機会を利用して家庭教育に関する講座を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- ・保育園・幼稚園では、保護者または在園児親子を対象に、命の大切さ、親子のふれあい、食育・咀嚼、絵本・読み聞かせ、運動遊び等さまざまなテーマで実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・実施園や保護者の関心・意向に沿った内容になるように、複数テーマの設定や講師との調整を行っている。
- ・一部のテーマでは講義形式ではなく、実際に参加者に体験してもらえる内容も取り入れている。

■ 事業の成果

家庭で大切にしてほしいことや、子どもと一緒に過ごす大切さなどについて啓発できた。保護者アンケートでは、保護者が自分の子育てを振り返り、保護者自身が子どもとのかかわり方について考えるきっかけになったようである。

また、講座で紹介された遊びや絵本の読み聞かせなども、家庭で実践したいという感想も多く見られた。

《以下 保護者アンケートの一部を抜粋》

- ・親子で楽しく活動できて、とても良かった。家でも教えてもらった遊びを実践したい。（親子ふれあい）
- ・絵本の読み方、選び方が参考になった。できるだけ家でもたくさん読み聞かせをして子どもとの時間を大切にしたい。また、テレビやスマートフォンなどメディアの影響についても考える良い機会となった。（絵本）
- ・命の誕生は奇跡の連続であることを改めて実感した。子どもを抱きしめてあげたい。子どもへの言葉かけも「早くしなさい」から「一緒にやろう」に変換していきたい。（命の大切さ）
- ・日ごろ子どもとの時間が限られている中、1対1でたくさん身体を動かして遊ぶ時間が持てて良かった。（運動遊び）
- ・よく噛んでもらうために、家でも食材の大きさ・固さを工夫したい。保護者への実習があって口や舌の動きが良くわかった。子どもの力を信じて見守ることで、子どもの成長する機会を得られることがわかった。（食育・咀嚼）

など

■ 事業実施上の課題

- ・現在は公立保育園・幼稚園の上記内容の他に、一部小学校で「命の授業」を実施している。いずれも希望があった園・学校を中心に実施しているが、今後も幅広く実施していけるよう各園や学校と連携していく必要がある。また、各園・学校に向けて講座内容や事業等のPR方法を工夫していく必要がある。
- ・今後は新規のテーマ・内容も充実させていきたいが、講師を探すのが難しい。



【講座：親子ふれあい遊び】



【講座：親子で楽しむ読み聞かせ】

■ 湖南省における家庭教育支援の取組

■ 目指す姿

子どもたちにとって「家庭」は、安らぎのある楽しい場所であり、創造性や自主性、集団規範などの基本的な力を身につけて社会へ巣立っていく基盤となる大切な場所である。しかし、現代社会の「家庭」は、多忙で孤立した状況の中で保護者が個別の責任において子育てを行っている状況がある。

このことから、子育ての悩みを気軽に相談できる場や人との繋がりを求めている保護者は、数多く存在する。そのため、家庭教育支援活動では、家庭で子育てに「しんどさ」を感じている保護者に対して、それぞれの家庭がおかれている状況を共感しつつ、相談・支援、子育て講演会を行っている。

■ 本年度の活動

(1) 支援チームの設置・活動

① 菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名 子育てサポーター2名

- ・不登校傾向や教室に入れれないなどの児童の保護者支援（平成12年～児童支援から実施）
- ・保護者対象に毎週水曜日13:00～15:00「苦っこはうす」で「ほっとサロン」を開設

② 三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け 広義のチームによる支援

コーディネーター（支援員）2名…保護者の信頼を受け、家庭へ「訪問型支援」を実施

- ・不登校傾向児童、支援の必要な児童、孤立傾向にある家庭と学校との繋がりを作る

③ 石部小学校…チーム名「さんぼ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名 子育てサポーター2名

- ・保護者の日頃の悩みを少しでも取り除けるような気軽に相談できる支援
- ・保護者対象に毎月10日、20日、30日 子育てサロン「さんぼ」を開設

④ 菩提寺北小学校…チーム名「あすなるカフェ」…チームによる支援

コーディネーター（支援員）1名 子育てサポーター1名

- ・子育てで孤立しないように不安を抱く保護者が気兼ねなく話せる支援の場の設定
- ・保護者対象に各週水曜日10:00～12:00 13:00～15:00

「あすなるハウス」で「あすなるカフェ」を開設

(2) 学習講座・行事等の実施 【子育て講演会の開催】

平成28年9月30日(金) 菩提寺小学校 会場：菩提寺まちづくりセンター

講演：「ライフスキルを親はどう伝えるか」 講師：内藤紀代子氏(びわこ学院大学講師)

平成28年12月20日(火) 石部小学校 会場：石部小学校

講演：「家庭でできる応急措置」 講師：林みさ子氏(湖南省石部医療センター看護主任)

平成29年1月23日(月) 石部小学校 会場：石部小学校

講演：「家庭の役割をロールプレイングしてみよう」 講師：滝口睦美氏(県SSW)

■ 本年度の成果

- ・支援員やスタッフは保護者と悩みを共有。学校とも情報を共有し子どもへの支援の糸口を見出すようにしている。学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携の有効なコーディネートを進めている。

■ 今後の課題

- ・専門的な知識や豊富な実践経験をもつ講師を招聘する等魅力ある講座を企画し、子ども支援について研修できる機会をより多くの人に提供していく必要がある。



【9/30 子育て講演会】



【「あすなるカフェ」での様子】

■ 保護者と子どもに寄り添い、見守り続ける 湖南省の家庭教育支援

■ 湖南省	
■ 活動名 (-) 地域人材の育成 (○) 家庭教育支援チームの設置・活動 (○) 学習講座・行事の実施	
講座数 (年間活動日数)	4 講座 (年間活動日数 45 日)

* 家庭教育支援チームの設置・活動 *

< 菩提寺小学校 > 毎週水曜日「ほっとサロン」の開設

■ 活動の概要

「ほっとルーム」のメンバーを中心に、子育てや親子間の悩みや心配事を一緒に考える居場所作り、仲間作りの手助け、子どもの寄り添い支援活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

活動拠点の『菩提こはうす』において、学校休業日の毎週水曜日の午後、主に保護者を対象に「ほっとサロン」を開催。

事業開始前から子どもに寄り添う活動を行っていた「ほっとルーム」

のメンバーが、本事業の柱となって活動しているので、学校と家庭をつなぐ役目も担っている。

■ 実施に当たっての工夫

毎週水曜日の午後に「ほっとサロン」を開催していることにより、保護者が行きたい時に行きたい場所になっている。

支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」で関わりのあったボランティアさんにサロン運営を手伝ってもらい、寄り添う児童の様子を担任に伝え、家庭へと情報が行くようにしている。

■ 事業の成果

「ほっとサロン」を訪れた保護者は、雑談を交えながら日頃の不安や悩みを話すことにより、気持ちをリフレッシュさせて子育てに向かわれている。開催日に、下校途中の児童が『菩提こはうす』に立ち寄り、東の間のふれあいコーディネーター、支援員と児童との交流も生まれている。

■ 事業実施上の課題

保護者の関心があるようなテーマで子育て講演会を開催したが、その運営が難しい。しかし、参加者の感想を伺うと概ね好評なので、講演会自体の関心を持ってもらえるような工夫が必要である。

< 三雲小学校 > 定期的な「訪問型家庭教育支援」の継続

■ 活動の概要

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけた家庭教育支援。不登校傾向児童や支援の必要な児童や保護者、孤立傾向にある家庭とのつながりを作る個別対応と訪問型による保護者支援を重点を置いて活動している。

■ 特徴的な活動内容

支援員が毎日の登下校の見守りから校外で多くの児童とかわかりを長期に継続させている。不登校傾向の児童、支援の必要な児童には、訪宅を含めた個別の支援を継続している。

コーディネーター数	4 小学校 各 1～2 人
家庭教育支援員数	4 小学校 各 1～2 人
実施開始年度 (24, 26, 27, 28) 年度	実施学校区数 (4) 校区

■ 実施に当たっての工夫

児童の支援にあたっては、学校、学童保育所、主任児童委員、民生児童委員、地域総合センターとの連携を図り、情報を共有することで支援体制を充実させている。

■ 事業の成果

時間をかけて地道な活動を続けてきたことで、確実に児童や保護者との信頼関係を構築している。段階的な支援を行うことで不登校傾向児童を登校につなぐことができた例もある。

■ 事業実施上の課題

いずれのケースも数ヶ月から数年という長い期間をかけた取組が必要である。

< 石部小学校 > 子育てサロン「さんぽ」の開設

■ 活動の概要

地域の協力を得て、保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流の場、子育てサロン「さんぽ」を設置（石部小学校コミュニティ・ルーム）。保護者の子育て学習の機会を提供している。

■ 特徴的な活動内容

- ・子育てサロン部屋「さんぽ」の設置
毎月 10 日、20 日、30 日 (休日と重なれば前後の日)。
- ・子育てサロンの案内を毎月作成し、発信。
- ・家庭教育支援アンケートで保護者の思いやニーズの把握。

■ 実施に当たっての工夫

子育てサロン「さんぽ」は、保護者同士が趣味を広げ交流を深められる、誰もができる作業や活動を進めながら行う中で、温かい雰囲気づくりを心がけている。

< 菩提寺北小学校 > 隔週水曜日「あすなるカフェ」の開設

■ 活動の概要

子育てに対する不安や悩みを気兼ねなく話せ、子育てで孤立しないように保護者への支援の場をつくるために、「あすなるカフェ」を開設。（菩提寺北小あすなるハウス）

■ 特徴的な活動内容

- ・「あすなるカフェ」の開設
毎月各週の水曜日の午前 10:00～と午後 13:00～各 2 時間

■ 事業の成果

「あすなるカフェ」が何でも話せる場として、少しずつではあるが、相談に足を運んでくれる保護者が定着し、顔馴染みになったり、仲間作りをしてもらえる場となりつつある。

* 学習講座・行事等の実施 *

■ 活動の概要

参加者が子育てについて研修する機会として学習講座・行事等を開催している。

■ 特徴的な活動内容 (代表的な事例)

- ・開催日 平成 28 年 9 月 30 日 (金) 9:30～11:40
- ・場所 菩提寺まちづくりセンター ・参加者 35 名
- ・講師 内藤 紀代子 氏 (びわこ学院大学 講師)
「～ライフスキルを親はどう伝えるか～」



【 折り紙で ほっとサロン 】

■高島市における家庭教育支援の取組

■目指す姿

近年、少子化や核家族化の進行により、兄弟姉妹の数が減少し、保護者が子育てのスキルトレーニングをする機会が減っている。また、地域における人間関係の希薄化が進み、近所で気軽に子育ての悩みを相談できる相手がいなくなるなど地域で孤立する親も増えてきた。

このような状況を踏まえ、祖父母や高齢者の子育てへのかかわりや地域の家庭教育支援を促進し、教育の原点である家庭が、子どもの「生きる力」を育む場として機能することをめざす。

■本年度の活動

①高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

- ・子どもの育ちを地域で見守っていくため、組織化した家庭教育支援チームの支援活動を推進。月2回、子育てひろばを開催し、子育てや家庭教育に関する相談対応や学習機会の提供など、定期的な活動を実施。



【家庭教育支援チームパラソルの活動風景】

②地域教育力向上講座

- ・民生委員を対象として、保護者に寄り添う対応をテーマに研修会を実施した。また、地域の子育て支援団体にも参加を呼び掛けた。

③共育研修会

- ・絵本の読み語り（聞かせ）を通して親と子の関わりの大切さや読書が持つ様々な効果を保護者が学ぶことを目的に市内各地域で研修会を開催した。

④子どもにどうかかわりあうか講座

- ・市内の園、学校と連携し、公民館の出前講座として、保護者を対象にその時期に大切にしたいことなど子どもの発達段階に応じたテーマについて、子育て学習の機会を提供し、家庭での教育力の向上を図る。



【子どもにどうかかわりあうか講座開催中の様子】

■本年度の成果

- ・市内の子育て支援関係団体と相互に関係を持ち、連携をすることができた。
- ・子どもにどうかかわりあうか講座では地域の公民館と学校とが連携を図り、各学校が課題としている内容の講座を実施し、広く保護者に子どもとのかかわりあい方について提供した。

■今後の課題

- ・家庭教育支援チーム員の支援力の向上
- ・家庭教育に関係する団体との協働体制

家庭と地域が、子どもの「生きる力」を育む場に

■ 高島市	
■ 活動	
(○) 地域人材の育成 (○) 家庭教育支援チームの設置・活動 (○) 学習講座・行事の実施	
講座数 (年間活動日数)	27 講座 (年間活動日数 24 日)

コーディネーター数	1 人
家庭教育支援員数	18 人
実施開始年度 (H26)	実施学校区数 (13) 小学校区

【学習講座・行事等の実施】

共育研修会

- 活動の概要
 - ・絵本の大切さを学ぶ研修会を開催
- 特徴的な活動内容
 - ① 日 時：平成 28 年 5 月 20 日 (金)、27 日 (金)、6 月 3 日 (金)
 - ・午前 10 時～11 時 10 分
 - ・午後 2 時～3 時 10 分
 - ② 内 容：「読み語りの持つ力～大切にしたい親子の触れ合い～」
 - 講師 京都橘大学 人間発達学部 児童教育学科助教 吉田 裕子 氏
 - ③ 参加者：1～2才児の保護者
- 実施に当たっての工夫
 - ・図書館と連携し、対象者向けの絵本や持ち運びの貸出機を準備した。
- 事業の成果
 - ・絵本の読み語りを通して、親子のつながりが深まることを認識する機会となった。



【読み語りの様子】

子どもにどうかかわりあうか講座

- 活動の概要
 - ・市内小中学校および幼稚園、保育園の保護者を対象に子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供。
- 特徴的な活動内容
 - ① 実施期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
 - ② 対象：市内小中学校および保育園・幼稚園 (私立を含む。) の保護者
 - ③ 内容：各学校、保育園ごとにその課題に対し協議して実施
- 実施に当たっての工夫
 - ・PTA 事業との共催や、授業参観に引き続いて行うなど、参加しやすい開催方法を心がけた。
- 事業の成果
 - ・普段は講演会等に参加されない方も参加ができ、その年代の子どもにどう関わっていくかの大切さを再確認する機会となった。



【子どもにどうかかわりあうか講座開催中の様子】

【支援チームの設置・活動】

高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

- 活動の概要
 - ・家庭教育に関する相談対応や親子で参加する取組や講座などの学習機会の提供や相談会など家庭教育支援の拠点活動を行う。
- 特徴的な活動内容
 - ・毎月第 2 水曜日と第 4 土曜日に、「ひろばパラソル」と称し、子育てひろばを開催。相談対応については、話を聴くことを基本として、チーム員自身の子育て経験等から対応し、困難ケースについては、専門機関に繋ぐこととしている。
- 実施に当たっての工夫
 - ・毎月平日に 1 日、土曜日に 1 日活動を行い、幅広く支援ができるように努めている。
- 事業の成果
 - ・継続的な活動により利用者のリピーターが増え、支援員と信頼関係を築いている保護者も増えている。
- 事業実施上の課題
 - ・今後、子育て支援センターとの違いを出していく必要がある。
 - ・今まで参加したことがない親御さんに来てもらえるような活動をしていく必要がある。

■ 日野町における「地域で子育て」青少年健全育成の取組

■ 目指す姿

子どもは地域の宝であり、地域で優しく見守られながら育っていくことが望まれている。しかし、近年は子どもや地域を取り巻く生活環境の変化等により、個々の関係性が希薄化し、昔のような地域の人・モノ・資源との関わりが少ないまま成長している子どもが少なくない。

そこで当町では「地域で子育て」という誰にでも分かりやすいメッセージを発信し、次代を担う子どもたちに地域全体で関わり育てるという意識を浸透させるとともに、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指している。



【子ども食堂の事例発表】

■ 本年度の活動

小・中・高校生らの思いの発表の場である青少年意見発表大会の開催に合わせ、「日野町地域子育てフォーラム 2016」を開催した。フォーラムでは『地域で子育て支援』をテーマに町内で子どもたちを大事にする垣根のない居場所づくり、子ども食堂を開催されている活動団体から先進事例の発表とパネルディスカッションを行い、地域全体で子どもを育てていくことの大切さを確認した。

■ 本年度の成果

「日野町地域子育てフォーラム」は、行政のほかに学校やPTA、地域団体など青少年に関わる諸団体が連携して取り組むことができ、参加した地域の大人に地域でできる関わりや役割について理解を深めてもらうことができた。

■ 今後の課題

大人が子どもと同じ目線に立って、表情や言葉をしっかりと受け止め、子どもたちの意見や考えていることを理解する。そして、子どもの成長を気づかい、それぞれの家庭で親子のふれあいを大切にし、社会のルールやマナーを教え、基本的な生活習慣を身につけさせ、地域全体で子育て環境のあり方を見直すことの重要性について、今後、継続的に議論していく必要がある。



【青少年意見発表大会】

「みんなが助け合う社会」「相手を思いやるやさしい社会」「みんなが笑顔であいさつのできる社会」をつくり、子どもが健やかに成長できる地域社会をみんなで築きあげていくことが望まれる。

■ “日野町のたから”を未来につなぐ 心豊かでたくましい人づくり

■ 日野町	
■ 活動	
(○) 地域人材の育成	
() 家庭教育支援チームの設置・活動	
(○) 学習講座・行事の実施	
講座数(年間活動日数)	19講座

コーディネーター数	1人
家庭教育支援員数	8人
実施開始年度(H 2 2)	実施学校区数(5小校区)

■ 活動の概要

就学前学習講座(5講座)、PTA等子育て学習会(9講座)、子育てサロン学習会(5講座)、マイナス1歳からの子育て講座(3講座)を実施している。

また地域人材の養成として、子育て支援チーム会議(6回)、子育てサポーター会議(5回)を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座(3回)を平成29年2～3月に予定している。



【就学前学習講座】

■ 特徴的な活動内容

家庭での教育力の向上を目的に、幼稚園や小学校など保護者が集まる機会(授業参観、1日入学など)に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、命の宿ったマイナス1歳(胎内)からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの!」と思えるパパ・ママをめざそうと新たな試みとして子育て講座を開催した。

■ 実施に当たっての工夫

子育て応援通信「ゆっくりおおきなあれ」(毎月1日発行)を庁内の子育て関係課(日野町子育て支援チーム)が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化することによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス1歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定した。

■ 事業の成果

○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの気持ちを理解することや子どもへの寄り添い方が勉強になった」など概ね高評価を得ている。

○PTA等子育て学習会

実施単位をPTAにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

○子育てサロン学習会

在宅で子育てをされている保護者が対象であるが、幼稚園(保育所)に通わせている保護者と比べ、保育士などの子育てについて相談できる子育て支援者が少ないことから、日頃の育児不安や悩みの解消に向け貴重な学習機会となっている。

○マイナス1歳からの子育て講座

父親の子育て参加が母親の負担を和らげ、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、父親の育児参加促進には大きな効果が望める。

■ 事業実施上の課題

○各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。

○子育てサポーターの育成

ここ数年子育てサポーターの増員が進まず、固定化されたメンバーとなっている。養成講座は受講されるもののサポーターとして登録・活動されるに至らない場合もあり、より多くの方に受講してもらうことはもちろん、受講後のサポーター育成にも力を注いでいく必要がある。



【マイナス1歳からの子育て講座】

■竜王町における取組（家庭教育支援事業）

■目指す姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、幼少中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努め、子どもの夢と希望を育む。

■運営委員会の設置

委員会名称	竜王町家庭教育支援運営協議会		開催数	2	委員数	10
委員名簿	氏名	所属・役職等	氏名	所属・役職等		
	寺嶋 恭子	幼稚園教頭	柴田 清志	幼稚園PTA会長		
	福本 綾子	西幼稚園教頭	西村 真志	西幼稚園PTA会長		
	田鍋 正寿	小学校教頭	犬井 新吾	小学校PTA会長		
	新庄 証	西小学校教頭	谷口 暁洋	西小学校PTA会長		
	武久 雅則	中学校教頭	若井 清次	中学校PTA会長		

■本年度の活動

講師等との事前打合せ（意見交換）

参加のためのチラシ作成と啓発活動

3月中旬 次年度事業内容の検討会

■本年度の成果

「楽しもう！夢と希望を育む子育てを語り合おう！親育ちのために」をスローガンに開催した町全域を対象とした教育フォーラムでは、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修ができた。

また、各学校園単位で講座・行事を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援することができた。

■今後の課題

子育て支援講座時の参加者がまだまだ少ないので、周知方法など参加者を増やすための対策を検討していく必要がある。

子どもたちの夢や希望を育もう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
() 地域人材の育成 () 家庭教育支援チームの設置・活動 (○) 学習講座・行事の実施	
講座数(年間活動日数)	9講座

コーディネーター数	3人
家庭教育支援員数	10人
実施開始年度(H22)	実施学校区数(2)校区

■ 活動の概要

○子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。

○町内のPTAと一緒に研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深める中で地域の教育力を醸成させる。

■ 特徴的な活動内容

【竜王幼稚園】

○お弁当作り講習会

9月6日(火)開催。対象は3歳児保護者。3歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」「簡単に作れておいしいおかず」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供すると共に、子どもへの食を通しての子育てに生かす。



【お弁当作り講習会】

【竜王小学校】

○子育て講演会

11月5日(土)開催。対象は児童、保護者。人間関係が築けない、コミュニケーションがとれない、また、学校に行きたいけれどいけない子ども、悩んでいる子どもたちや家族も多くいる中、今までの体験を公演ライブという形で全児童・保護者に訴えかける形で開催した。

【竜王西小学校】

○子育て教育講演会

10月24日(月)開催。対象は保護者、教職員。「子どもの自主性を育てる時間管理術」と題し、子どもの自主性を育て、自己肯定感を高めることができる時間管理術について学習した。

○竜西フェスティバル

11月12日(土)開催。対象は小学生、保護者。地域を題材にした大型の紙芝居の朗読を通して、地域の文化や歴史を学び、郷土を愛する心情を育てる。また、ダンスや科学実験など親子で参加体験し地域の人との交流を深める。



【竜生フェスティバル】

【竜王町教育フォーラム2016】

11月19日(土)開催。対象は保護者、教職員。平成28年度竜王町PTA連絡協議会がかかげる「楽しもう！夢と希望を育む子育てを語り合おう！親育ちのために。」のスローガンに基づき、子どもたちの夢や希望を育み、親が育つための研修会を実施。

■ 参加者の主な感想

○9月6日(火)竜王幼稚園で開催したお弁当づくり講習会では、上の子どもの時にも参加させていただき、今回もぜひお弁当作り講習会に参加したいと思っていました。みんなに励ましてもらいながら出来上がりました。簡単に作れるものを教えてもらったので小学校の運動会のお弁当にも活用したいと思っています。

一品一品のアイデアに乏しい私にとって、今日教えていただいたレシピは、本当に私にも出来るか不安でいっぱいでした。でも、混ぜる→包む→焼くなど、簡単なものでどれも美味しくできました。初めは緊張しましたが、地域の料理グループの方々と一緒に調理できたのでとても良い経験になりました。などの感想をいただきました。

○11月19日(土)竜王町教育フォーラム2016では、現代において忘れてしまっている人生の基礎となる思考、考え方を教えていただきました。未来を担う子どもたちをどう育てていくか試行錯誤しながらも一緒に成長していきたいと強く思いました。自分がきちんと子どもと毎日向き合って話を聞いてあげられているかなと不安になったと同時に、少しずつそうになりたい。子どもを見守り、必要な時に必要な助けをしてあげたいと思いました。などの感想をいただきました。

■ 事業の成果と今後の課題

○参加されると「良かった」という感想を持ってもらえるが、そこに至るまでのアピールが十分でないため、参加者にも限りが見られる。もっと多くの方に興味関心を持っていただけるような周知の方法を考えていくことが必要である。